

## 復興支援異分野連携プロジェクト 食の復興支援部会、地域食材価値創造研究会 被災地域農畜水産物、加工食品等の価値創造と地域共同セントラルキッチンによる健康管理(第2回食の復興支援部会)

### 【概要】

開催日時：平成 23 年 6 月 6 日（月）11:00～13:00

開催場所：秋葉原 UDX 4F UDX オープンカレッジ

参加人数：参加者数:16 名

### 【会議開催目的】

被災地域の農業や畜産、水産業の復興を異分野の産学官連携、異業種連携などにより様々な技術やビジネスモデルなどにより地域の新たな事業分野の開拓をはかる新連携、農商工連携により、これまでになかった新産業、新たなソリューションとして検討する。

被災とは地震や津波による直接被害、原子力発電所事故などによる非難や風評被害、流通阻害や加工工場被害等による二次被害、計画停電や節電による被害など。

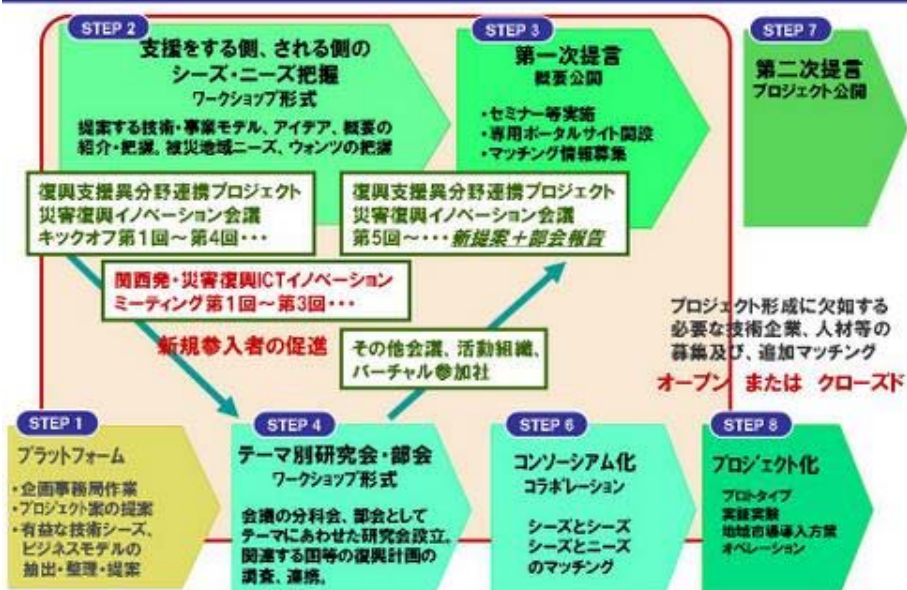
### 【会議内容】

今後のプロジェクトの方向性

新産業文化創出研究所 所長 廣常啓一

第1回～第4回は参加企業・団体のシーズを出しあうことに注力した会議であったが、第5回、第6回の会議では部会報告と新提案を行う。現在進行中の部会に関しては、既にプロジェクト化した段階での話しもあり、クローズドで行っているものもある。

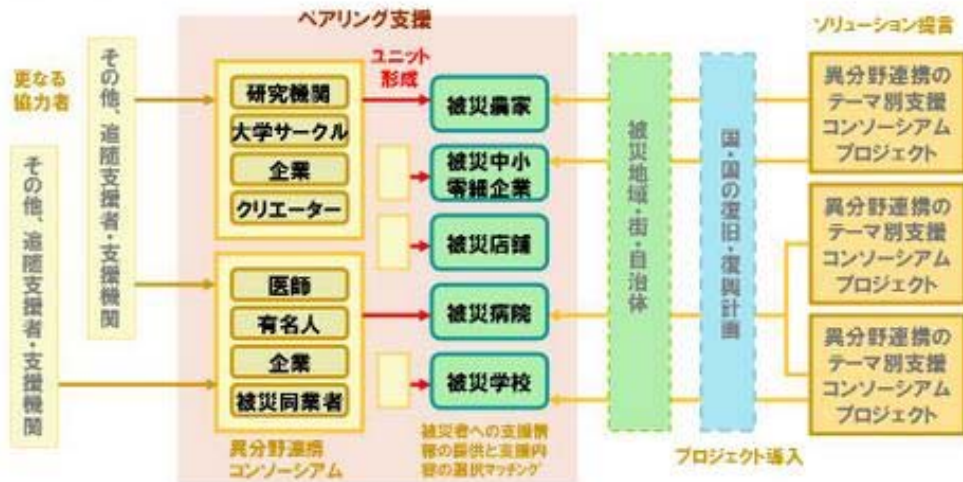
### 近日の進め方



「ペアリング支援」を行う。地元の情報を吸い上げ、チームを作ってプロジェクト化を行う。

### ペアリング支援

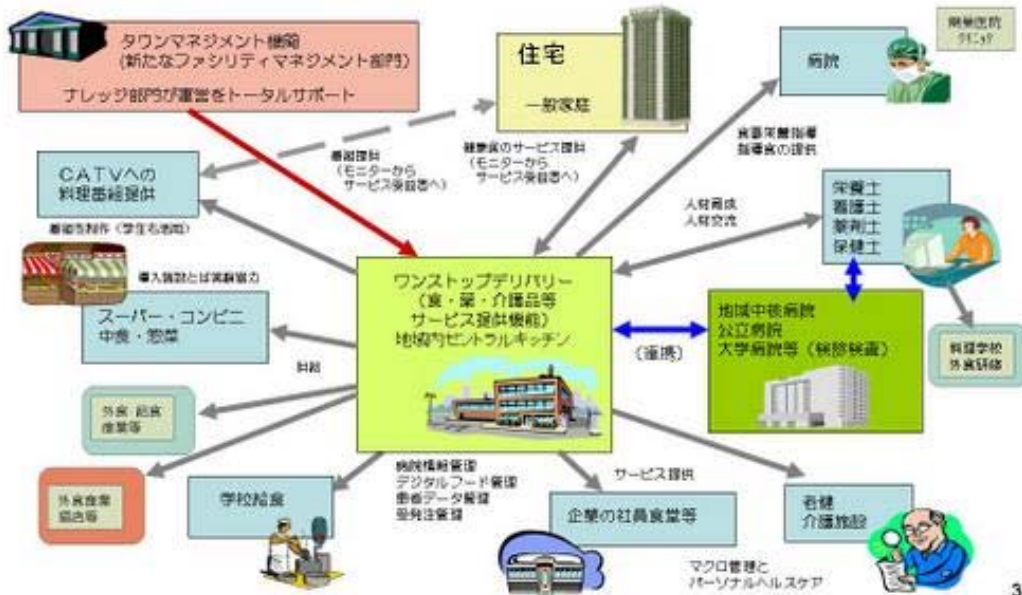
中国四川大地震の奇跡の復興を生んだ、地域通しをヘアリングし、競いながら復興を推進したヘアリング支援。東日本大震災の被災・被害地域で、この仕組みを小規模にし、民間企業や団体、大学や研究機関を中心としたコンソーシアムが、被災地域の街や個別の農家や漁業家、組合や商店、中小企業、学校や病院の復興支援のユニットを形成し実施し、各コンソーシアムやプロジェクトのチーム連して競い合い、復興を急ぐ。その復興状況をポータルサイトなどでリアルタイムの情報公開し、リアルとバーチャルのオープンイノベーションにより、更なる応援者が各ユニットの課題解決や協力を拡大していく。



地域における食とヘルスサービス(ドクターズキッチン含む)のビジネス展開例

### 地域における食とヘルスサービス(ドクターズキッチン含む)のビジネス展開例

タウンマネジメント機関が、運営学公民連携を通して、地域に対して、様々なサービスを実際に各分野に提供していくことで、その対価を収益源とし、自立運営をおこないます。



<フリーディスカッション>

- 給食施設はあっても実際に食材がない。⇒配給数量が全量確保できた時のみにしか食材を流通させない場合がある。
- 既存CKを活用し、ネットワーク化することも可能
- CKを必要としているか、現場のニーズを把握することが大切
- CKは衛生管理が大切。
- 地元に対して、プロジェクトと通してどのように支援できるかを提案する必要がある。
- 長野県飯田市が行っているおひさまファンドなどが参考となる。
- 外部アドバイザーをもつことにより、衛生管理等効率的なオペレーションをおこなうことができるようになる。

【第2回分科会を終えて】

地元を知り、どのような支援を行うことができるかを提案することがプロジェクト推進のカギとなる。そのために、地元の情報を吸い上げる「ペアリング支援」を行う。それをWEB上で公開することにより、より具体的な、より理解されるプロジェクトを推進することが可能となる。

以 上